

世界経済評論

日米産業政策摩擦の問題点 渡辺太郎

東・東南アジア諸国をめぐる

先進諸国貿易構造の変化 片野彦二

8

1983

ウイリアムズバーグ・サミットの成果と日本
本野盛幸

国際金融危機と発展途上諸国 / 中西市郎

世界的大不況下の国際金融危機 / 小野朝男

ハンガリー経済改革の現状と展望(下) / コルナイ・ヤーノシュ著
盛田常夫訳

《書評》尾崎英二著『国際金融論』……大宮僕一
『統合的多国籍企業論』, 『戦後日本の企業経営』,
『株式会社と現代社会』, 『産業・技術協力の新展開』

産業組織論の構造と展望 / 大西幹弘

世界に通用する日本人の育成…中山素平

ハンガリー経済改革の現状と展望 (下)

経済メカニズムと成長テンポの相互連関をめぐって

コルナイ・ヤーノシュ 著
盛田 常夫 訳



目次

はじめに

- 一 価格体系と金融規制
- 二 集中と分散 (以上五月号掲載)
- 三 非国有分野
- 四 経済メカニズムと成長テンポの相互連関 (以上六月号掲載)
- 五 推進力と対抗力

五 推進力と対抗力

最後に、改革の展望について述べてみたい。しかし、明瞭な予測を与えることができないことを、前もって断っておかなければならない。それは慎重を期しているからではなく、改革の推進力と対抗力との戦いが、今もなお続いているからである。以下、若干の重複を覚悟しつつ、主要な要因を挙げてみたい。

(1) ハンガリー国境外の対外的諸条件の将来的展開が、大きな影響を及ぼすであろう。つまり、他の社会主義国でも改革がおこなわれるであろうか、それともハンガリーの実験が孤立したままに止まるであろうか。原材料・エネルギー供給の面でコメコン諸国間の関係がどのような役割を果たしていくだろうか。また、こ

これらの諸国との貿易や、その他の経済関係がどのように展開していくだろうか。資本主義世界経済情勢がいかなる展開をみせ、そこに向かうハンガリーの輸出可能性や輸入の金融条件がいかに形成されるであろうか。世界の政治情勢がいかに展開し、これとの関連でハンガリーの防衛費の負担がどのようになるであろうか。これらの対外環境の将来展望を予測することはできないと思うが、しかしこれなしに国内過程の明瞭な展望を得ることも不可能である。

(2) 国内の勢力に目を転じてみると、最初に強調したいことは、「社会的装置」——政治・社会・権力機関および経済管理の責任ある部署にいる人々——が改革にどのような態度をとるかである。私の印象によれば、これは一様でなく、多くの人々に相反する感情が共存している。しかし、経済管理スタッフのなかには確信をもっている改革継承者が多数おり、秀れた能力、創意工夫でメカニズムの改善およびその敵対物との戦いに一貫して努めていることが、改革への希望を与えているものになっている。この敵対物についていえば、今日では流れは改革に向かっており、明白な敵対は極めて稀で弱いものになっている。とはいえ、さらなる前進は容易でない。真の分権化を進めるステップによって、様々な集団からこれまでの影響力を取り去ることになる。そのような集団が「heaus mit uns (進んで出ていく)」原理を探ることは、期待できそうもない。したがって、反改革の流れ

第9表 ハンガリーにおける生産部面でみた不足の指標

| 指 標 | 測定単位 | 指標の説明 | 1976 | 1977 | 1978 | 1979 | 1980 | 1981 | 評 価 | 出 所 |
|------------------------|------|---------------------------------------------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------------------------|----------------------|
| 1. 全工業の在庫に占める原材料在庫の比率 | % | 「売り手市場」では高くなり「買い手市場」では低くなる | 70 | 71 | 72 | 72 | 72 | — | 最も重要な総合指標のひとつ 不足の強度は変わらず | Fabri(8) |
| 2. 建設業の生産額に占める注文拒否額の比率 | % | — | 39.4 | 41.4 | 26.5 | 16.8 | 16.0 | 20.8 | 1977年より投資の緊張は次第に軽減 1981年に幾分増大 | 中央統計局の報告 |
| 3. 建設資材不足の間接指標 | 百分率数 | 建設業生産の対前年度指数と建設資材生産の対前年度指数との差。高くなればそれだけ不足が大きくなる | 1.2 | 0.6 | -3.1 | -3.1 | -4.5 | — | 大きく改善 | Gács(11) |
| 4. 充足されない鉄道輸送需要 | | | | | | | | | | |
| a) 不足貨車数 | 千車両 | — | 307.2 | 306.3 | 478.3 | 367.3 | 159.2 | 172.2 | } 1978年より大きく改善 | Major(24) |
| b) 不足輸送能力 | 百万トン | — | 9.1 | 9.7 | 15.1 | 11.6 | 5.0 | 5.3 | | |
| 5. 労働力不足の部分指標 | % | 職業仲介所に登録された求人数にたいする回転数の比率 労働市場での需給が全てここを通しておこなわれるわけではないので、信頼性は低い | 24 | — | 35 | 36 | 39 | — | 1978年に幾分労働力不足が緩和 その後停滞 | 国家賃金・労働庁からのインフォメーション |

第10表 ハンガリーにおける消費部面でみた不足の指標

| 指 標 | 測定単位 | 指標の説明 | 1976 | 1977 | 1978 | 1979 | 1980 | 1981 | 評 価 | 出 所 |
|----------------------|------|----------------------------------------------------------------------|---------|------|----------------------|------|------|---------|---------------------------------|----------------------------|
| 1. 国営住宅の割当て待機時間(計算値) | 年 | 年頭の申込み者数の残を年間の割当てで数で割ったもの | — | 7.3 | 6.8 | 7.1 | 7.0 | — | 不足の強度は不変 | 中央統計局の報告 |
| 2. 乗用車の行列待機時間(計算値) | 年 | 年頭の注文ストックを年間の販売数で割ったもの | 2.2 | 2.5 | 3.6 | 5.3 | 3.1 | 2.4 | 1979年に比べて緩和 1966~81平均の2年に戻る | Kapifány-Kornai-Szabó [16] |
| 3. 電話敷設申込者数 | 人 | — | 233,000 | — | 267,000 | — | — | 296,000 | 不足の強度は増大 | 郵政管理主局の報告 |
| 4. サービス請負い平均時間 | | | | | | | | | | |
| a) 車検日数 | 日 | 国有および協同組合セクターのみのデータ 多くのものから特徴的な指標を選択 実際の日数は事前に告知されるものと異なることもある | — | — | 7.9 | — | 8.1 | — | } 変化の方向は一樣でないが大きな変化はない | 中央統計局の報告 |
| b) 事故車両修理 | | | — | — | 15.9 | — | 16.5 | — | | |
| c) 1kgの衣料のクリーニング | | | — | — | 11.9 | — | 11.0 | — | | |
| d) 衣料1点のクリーニング | | | — | — | 12.7 | — | 10.9 | — | | |
| e) 紳士服の仕立 | | | — | — | 35.9 | — | 35.9 | — | | |
| f) 婦人服の仕立 | | | — | — | 24.9 | — | 24.9 | — | | |
| g) プラスチック床張 | | | — | — | 17.9 | — | 18.9 | — | | |
| h) 家屋塗装 | | | — | — | 21.6 | — | 26.8 | — | | |
| 5. 病院の看護日数 | 日 | ベッド数の不足は看護日数減に作用 | 14.6 | 14.6 | 14.6 | 14.5 | 14.2 | — | 不足の強度は不変 | 中央統計局の報告 |
| 6. 購入の困難さにたいする世論の評価 | % | 世論調査「経験によれば、日常の購入の困難さは、a)増した、b)変わらず、c)減った、のどれであるか」 | | | a)37 b)46 c)12 | | | 5 | 住民の主観では不足の強度は停滞ないし増大減少の評価は僅かである | マスコミ・センターからのインフォメーション |

れが強まれば、これらの勢力は勢いを増そう。

(3) 第一点と関係するが、特別の注意を払うべきは、国営大企業管理者の行動である。この部署では、相反する感情の共存がとくに強く感じられる。その多数は中央の監督を逃れ、自主的に輸出入を取り決めたり、価格や賃金を決定したりできるような権限を含む、真の自主性を望んでいる。彼等は「規制体系」の複雑さやその絶え間ない変更に、苛立っている。と同時に、資金上の問題が生じた時に国がその圧力に屈して援助することを望んでおり、この安定経営の特権を失ないたくはないのである。

小規模経営にかんする一九八二年の法令にたいしては、大企業の側から強い反対が表明された。どのような所有形態であれ、小企業は好ましくない競争者なのである。いくつかのところでは、販売競争も生じよう(慢性的不足がこれに競争制限的反作用を与えるが)。大企業にとってより危険なことは、多くの規制で束縛されている大企業に比べ、束縛の少ない小企業が投入財の調達で有利な位置を占めることである(とくに労働力を引き寄せることで)。このことは、大企業の側からの自主性拡大と規制削減の要求を、強めることになろう。また、小企業と対立することにもなる。実際、若干の企業や国家機関では、経済的労働共同体の

形成を嫌ったり、それへの反対がみられる。

しかし、結局のところ、農業で大規模単位と小規模単位、国有分野と非国有分野との平和共存や協力が進んでいるように、どこでもこの種の共存関係が形成されるという期待はある。しかし、今のところ、この関係はまだ明瞭になっていない。

(4) 影響力や特権を失うことへの恐れと密接に関連しているが、独立した要因として考えることができるものに、イデオロギー上の保守性と正統性によって生み出される躊躇いがある。これは改革によってその個人の状態が影響を受けない人々についていえる。正当にも、外国人の分析は、しばしば、ハンガリー改革のプラグマティズムを強調する。諸変革を「イデオロギー化」しないで、実行してしまうということである。しかし、ハンガリーの全ての人がプラグマティストであるわけではない。多くの人は、すでにこれまでの改革が社会主義運動の伝統が許容する理念から逸脱したと感じているし、市場や利潤や競争がある以上家の所有やなかでも私的所有がこれ以上拡大することに、苛立っている。ハンガリーは未踏の道を進んでいるのである。どこに臨界点があり、どこでイデオロギ一的反発がこの転換過程を「阻止する」かを、一体誰が予測しえようか。

今日のハンガリーやさらに改革を進めたハンガリーを特徴づける「混合経済」は、一度に鋼とスラッグを産み出す溶鉱炉に似ている。つまり、その成果は不可避免的に負の結果をも随伴するわけである(金銭奴隷、無闇な自己搾取、策略あるいは腐敗)。これらの有害な随伴現象は——とくにそれらとの十分な戦いがなければ——イデオロギー的に社会主義経済の改革に反対する人々に、格好の材料を提供することになる。

(5) 所得分配は重要な世論形成要因である。世論調査によれば、ハンガリー社会の大部分が現在よりも平等な所得分配を望んでいる。しかしこれは我慢できない怒りというよりは、むしろ現存の事態にたいする不同意のようである。こうした状態が将来も続いていくかどうかを、誰が知ろうか。不平等がさらに拡大すれば世論は厳しくなるが、改革の一貫した推進はこうしたことを惹起しよう。そして、より重要なことは、全般的な平均生活水準が停滞ないし下降している場合には、不平等にたいする社会の反応がより鋭敏になることである。Hirschman [15] はトネルのアナロジーを用いて、この問題をうまく特徴づけている。いまトネルに二車線が並行しており、次のような道路状況であったとしよう。つまり、われわれの車線は止まっているが、隣の車線は流れ出した。われわれは、初めは、

これを好ましい前兆とみなしがちである。トネルの出口が完全に詰まっているようにはみえないから、少し待てばこちらの車線も流れ出すと考えるからである。しかし隣の車線が連続的に流れているのに、こちらの車線は止ったままであるとしたら、遅かれ早かれ忍耐が切れ、隣の車線に入ろうとするであろう。もしある人の所得が他の人の所得より速く上昇したとしても、全ての人の所得が伸びていれば、通常社会はこれを許容しよう。しかし、相対的に低い所得層の所得が伸びていないのに、あるいは減少さえしているのに、他の所得層のそれが目立って増加すれば、社会の許容限界は急激に下がるだろう。それゆえ、改革の命運は、生活水準の全般的な上昇が再び始まるか否かにかかっているのである。

他の多くの要因も改革の将来に影響を及ぼすが、すでに紙幅も尽きたので、省略せざるを得ない。また、たとえさらなる要因を考慮したとしても、より明瞭な予測が得られるとは思わない。ただひとつ明瞭なのは、改革が停滞せずといったその前進をみて欲しいという筆者の希望であり、自己の仕事を通してこの前進に寄与しようというわれわれの努力である。

(21) Szalai [33] は、大企業の再集中化への野望を明瞭に示している。

(22) Kispiata [17] は、家庭農園につ

参考文献

- いてのインタヴューを試みた。住民の多くの層はこれを是認し、この活動を熱心に支持してまゐる。しかし、強い留保があることも事実である。例えば「卒直にいうと、このように小生産が繁殖して広がることを、察していません……」。「……今は少し手綱が緩みすぎて、小生産が繁殖してはいますが、長期的にみるとたいへん危険だと思えます……」。「われわれがそれに依存しているから存在するにすぎないと思えます。強制的な解決になっているわけです。でもそれだけ早く、これを乗り越えるべきだと思えます」などがそれである。
- (23) マスロー・センターの世論調査に おいて、「ハンガリーでは所得格差を 拡げるべきか、それとも縮めるべきか」という質問が、繰り返し設定されて いる。それによれば、縮めるべきと するのが、一九七三年五六%、一九七 四年六九%、一九七六年六五%、一九 七九年六三%(ソダベストだけの調査)、 一九八〇年六〇%であった。拡げるべき とするのが、各々の年で、二八%、 一四%、一四%、一八%、二一%であ った。サンプル間の相違を考慮してい えることは、分配が安定的であること と、あるいは少なくとも一定方向への シフトをみせていることである。これ については Angelusz - Pataki (1), Nagy - Angelusz - Tardos (27), Farkas - Pataki (10), Nagy - Virághi (28) を参照。
- [1] Angelusz R. - Pataki J., *A jövedelmekülönbségek alakulásának társadalmi közvéleményében*, Sokszorosítva, Tömegkommunikációs Központ, 1976.
- [2] Antal L., Fejődés Kiterővel A magyar gazdasági mechanizmus a 70-es években, *Gazdaság*, 24. szám, 28-56. oldal.
- [3] Bársorny, J., Lista Tibor koncepciója, a szocialista vállalkozás, *Váltság*, 24. évfolyam 12. szám, 22-44. oldal, 1981.
- [4] Bauer T., Beruházási ciklusok a tervgazdaságban, *Gazdaság* 12. évfolyam 4. szám, 57-75. oldal, 1978.
- [5] Bauer T., *Tervgazdaság, beruházás, ciklusok*, Közgazdasági és Jogi Könyvtáradó 1981.
- [6] Cserepné Kovács, A mezőgazdasági kistermelés termelőiről. *MTA Közgazdaságtudományi Intézet Közleményei*, 23. szám, 1981.
- [7] Donáth F., *Reform és forradalom - A magyar mezőgazdaság struktúrájának alakulása 1945-1975*, Akadémiai Kiadó, 1977.
- [8] Fábri E., Felszíni változások és mélyen fekvő tendenciák a Készlétfolyamatokban, *Pénzügyi Szemle*, 25. évfolyam, 728-739. oldal 1981.
- [9] Falubró V. - Gálk L., A nyereség részarányok visszarendeződési tendenciáiról *Pénzügyi Szemle* 25. évfolyam, 909-915. oldal, 1981.
- [10] Farkas K. - Pataki J., *Vélemények általános gazdasági kérdésekről*, Sokszorosítva, Tömegkommunikációs Központ, 1980.
- [11] Gács J., Hiány és támogatott fejlesztés, *Közigazdasági Szemle*, 23. évfolyam, 1043-1060. oldal, 1976.
- [12] Gábor R. I., A második (másodlagos) gazdaság, *Váltság* 22. évfolyam 1. szám, 1979.
- [13] Gábor R. I. - Galasi, P., *A "másodlagos" gazdaság*, Közgazdasági és Jogi Könyvtáradó, 1981.
- [14] Háda L. - Trautmann, J., Koncentráció és gazdaságosság, *Pénzügyi Szemle*, 24. évfolyam, 197-203. oldal, 1980.
- [15] Hirschman, A. O., *Essays in Trespassing*, Cambridge UP Cambridge, 1981.
- [16] Kapitány Zs., Kornai J. - Szabó J., A hiány újatermelése a magyar autópiacon, *Közigazdasági Szemle*, 29. évf. évfolyam, 300-324. oldal, 1982. (徳田常夫訳「ハンガリー自動車市場における不足の再生産」『社会労働研究』第二九巻三・四号、一九八三年所収)
- [17] Kispišta I., Vélekedések az agrárgazdaságról, *Váltság*, 1. szám, 80-92. oldal, 1982.
- [18] Kolosi T., *Másodlagos gazdaság és társadalmi szerkezet*, Sokszorosítva, Országos Tervhivatal, 1978.
- [19] Kornai J., A hiány újatermelése, *Közigazdasági Szemle*, 1978. 25. évfolyam, 1034-1050. oldal, 1979. (徳田常夫・田嶋延行編訳『反均衡と不足の再生産』日本評論社、一九八三年所収)
- [20] Kornai J., "Kemény" és "puha" költségvetési korlát, *Gazdaság*, 14. évfolyam, 4. szám, 5-19. oldal, 1979. (徳田常夫・田嶋延行編訳『反均衡と不足の再生産』日本評論社、一九八三年所収)
- [21] Kornai J., *A hiány (Economics of Shortage)*, Közgazdasági és Jogi Könyvtáradó, 1980.
- [22] Lackó M., Feszültségek felhalmozása és leépítése, *Közigazdasági Szemle*, 27. évfolyam, 923-940. oldal, 1980.
- [23] Laki M., Megszönés és összevonás, *Gazdaság*, 16. évfolyam, 1. szám, 36-52. oldal, 1982.
- [24] Major, I., *Közlekedés a tervgazdaságban*, Sokszorosítva, MTA Közgazdaságtudományi Intézet, 1981. (25) 日本評論社、一九八三年所収)

5.108

(R)

Comments on the Present
State and Prospects of *Villijozin* Leads
the Hungarian Economic Deputy 83. 2. 22
Siklai Katalin Hyoron, 1983,
65-67. (III. item)

世界経済平論

昭和三十四年八月二十二日

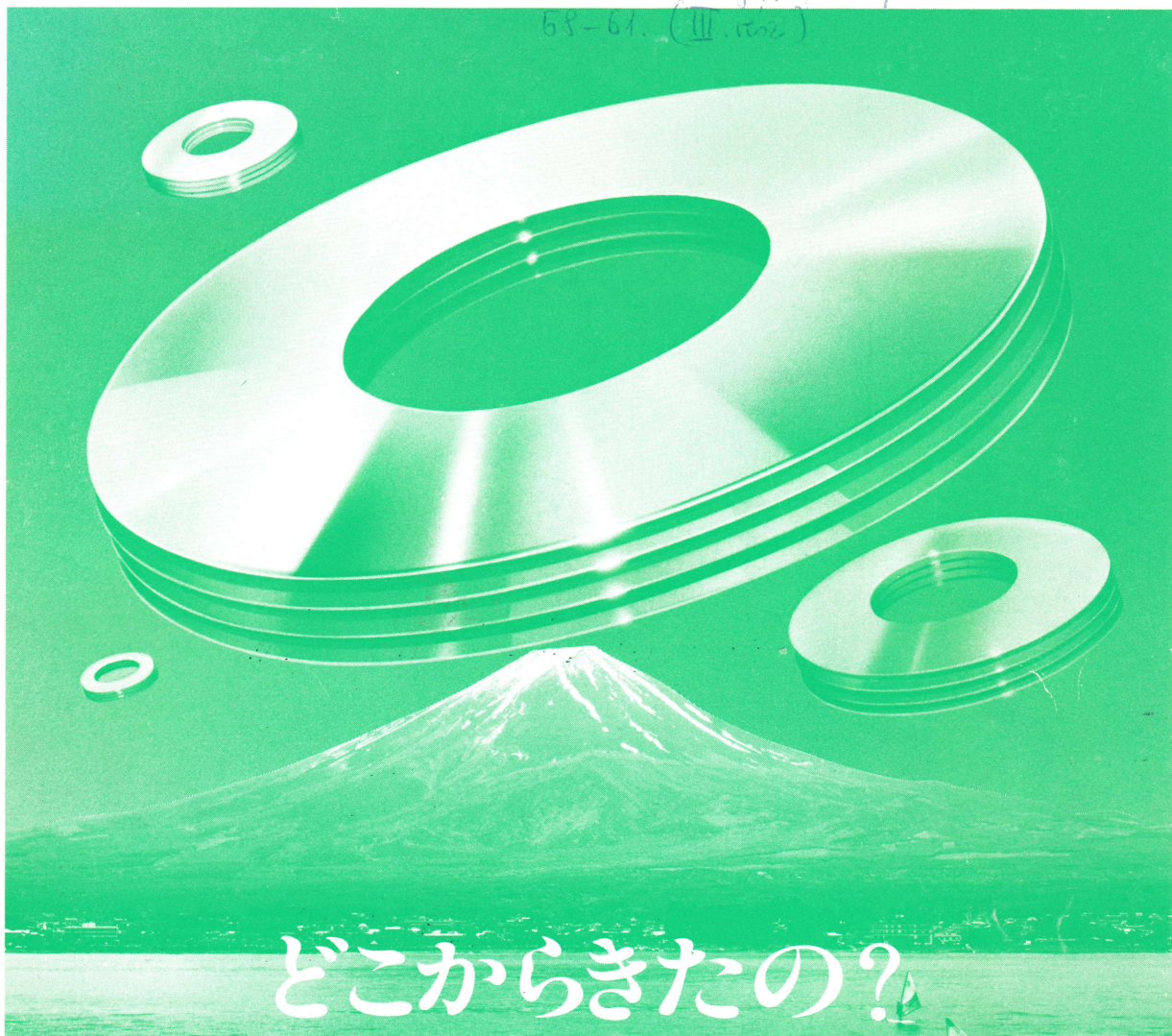
第三種

郵便

物

認

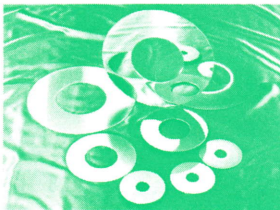
可



どこからきたの？

新型の宇宙船？ いえ、これは私達日本軽金属がこのたび開発に成功した、磁気ディスク用アルミニウム合金基板(ブランク、サブストレート)なのです。

当新製品は、当社の高純度アルミニウム地金をベースとし、金属間化合物および異物を最も少なく、かつ微細化した高純度Al-Mg合金を素材として、生産加工されたものです。



その品質は、従来品に比し一段と向上しており、特にサブストレートは超精密研削により、表面粗度が0.004ミクロンという高精度の鏡面となっています。

今、私達の地金から加工にわたる研究開発力は、コンピューター分野やエレクトロニクス分野へ、日本の空から世界の空へ、大きくはばたきはじめました。

 **日本軽金属株式会社**

〒104 東京都中央区銀座7-3-5 TEL03(574)3211